

公益社団法人日本都市計画学会北海道支部
平成30年度 研究発表会
報 告

1. 趣 意

日本都市計画学会北海道支部では、都市計画に関する日頃の研究内容や実践活動を広く発表する機会を設けることを目的とし、平成30年度支部研究発表会を開催します。発表いただく内容は研究論文に限ることなく、都市・地域づくりの現場における実用性に寄与する実務報告や実践報告も含めたものとし、都市計画に関連する分野の方々の情報交換や交流の機会になることを期待します。

2. 日時・会場

- (1) 日 時：2018年10月27日（土曜日）13時～17時
- (2) 会 場：北海道大学工学部A棟2階 アカデミックラウンジ1・2
- (3) タイムテーブル：13：00 開会
13：05 ポスターセッション
14：00 基調講演
15：00 研究発表セッション 優秀ポスターの表彰式
17：00 閉会

3. 後 援

日本建築学会北海道支部、土木学会北海道支部、日本造園学会北海道支部、北海道都市地域学会、日本計画行政学会北海道支部、日本都市計画家協会北海道支部、北海道地域観光学会、北海道市長会、北海道町村会、北海道開発局、北海道、札幌市

4. ポスターセッション

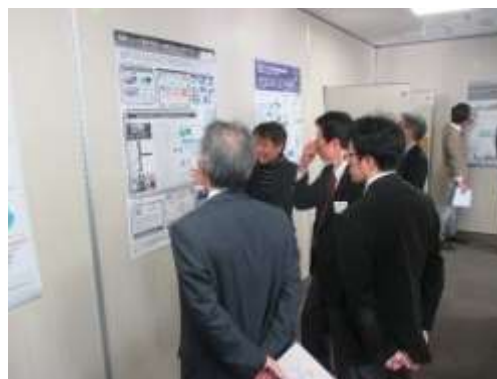
<一般部門>

No.	研究発表タイトル、◎研究代表者（所属）、共著者
1	親子が足を運びたくなる子ども・子育て支援とソーシャルワーク・システム ◎所美穂子（岩見沢市教育委員会）、鈴木栄基、岩本康治、井端明男
2	季節と交流のダイナミズムからみた暮らしの仕組みに関する研究 -江差町における地域資源の再発見と観光への活用を事例として- ◎阿部拓海（北海道教育大学函館校）、宮原浩、池ノ上真一
3	観光に対する住民意識と主観的 QOL との関係性に関する研究 -北海道美瑛町を事例として- ◎平柳恵太（北海道大学国際広報メディア・観光学院観光創造専攻）、石黒侑介、上田裕文
4	海外の沿道休憩施設の事例と比較した「道の駅」の計画・設計に関する考察 ◎松田泰明（国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所）、大竹まどか
5	北海道の環境および景観に適合した道路附属物等の色彩に関する提案 ◎笠間聡（国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所）、松田泰明

6	日本型フットパスの観光利用の可能性 - 北海道における利用者アンケート調査から - ◎太田広 (国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所)、松田泰明
7	地域における「負の存在」の利用促進によるまちづくり - 紋別市の流氷の資源化プロセスにみる「雪氷観光」創造の事例 - ◎福山貴史 (北海道大学観光学高等研究センター)
8	北海道の26市町村における総合計画の比較と今後の計画策定に関する検討 - 人口半減が予測される道内の市町村の総合計画の構造と策定プロセスについて - ◎渡邊格 (札幌市立大学大学院デザイン研究科)、椎野亜紀夫
9	スクールバス通学生と徒歩通学生の通学・学校活動への意識に関する研究 ◎高野伸栄 (北海道大学大学院)、倉田順希
10	アドベンチャーツーリズムと地域振興 ◎佐賀彩美 (一般社団法人北海道開発技術センター)、原文宏、富田真未
11	移動型サービスの利用を中心とした生活構造に関する基礎的研究 — 深川市納内町の移動販売事業に注目して — ◎大伏玄泰 (北海道大学大学院工学院建築都市空間デザイン専攻)、森傑、野村理恵

<テーマ部門>

No.	研究発表タイトル、◎研究代表者(所属)、共著者
12	函館の景観まちづくりを検証する～市民活動編 ◎宇田共佑 (北海道教育大学函館校)、松宮亮、池ノ上真一
13	民間団体による未指定文化財保全活動の社会的意義に関する研究 - 兵庫県篠山市における古民家再生ボランティアを事例に - ◎渡邊萌木 (北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院)
14	「寿都町歴史文化基本構想」の策定の取り組みと今後に向けて ◎佐藤葉澄 (寿都町教育委員会)、寿都町教育委員会



ポスターセッション

5. 基調講演

【論 題】 仙台藩士のグランドデザイン -その町並み、どう生かすか-

【講 師】 伊達元成氏 伊達市噴火湾文化研究所学芸員 (亙理伊達家 20 代当主)

【内 容】北海道伊達市は明治3年に、仙台藩亙理伊達家によって開拓されたまちです。現在でも当時の町並みが今なお残っており、テレビや本などでしばしば紹介されています。その特徴的なものとして、たとえば容易に敵が侵攻できないように複雑な道路になっていることや、城郭作りを物語る土塁や田畑に水を供給する現役の用水路などがあげられます。このような特徴を読み解くと、伊達市のアーバンデザインは武士らによってなされてきたことがよくわかります。そしてそれが伊達市の特徴でもあります。この度の講演では、このような町並みの特徴を生かすことは地域の歴史を大切にして郷土愛を育むためにも大事であること、また、これらを観光資源として活用すること、一方で地域の歴史的背景を無視したまちづくりがなされる場合もあって郷土の歴史に誤解を与えてしまう場合があることなどをお話しいただきました。



基調講演



伊達元成氏

6. 研究発表セッション

発表セッション1. 一般部門「持続的なまちづくり」	
発表者、共著者	タイトル
◎所美穂子、鈴木栄基、岩本康治、井端明男	親子が足を運びたいくなる子ども・子育て支援とソーシャルワーク・システム
◎渡邊格、椎野亜紀夫	北海道の26市町村における総合計画の比較と今後の計画策定に関する検討 - 人口半減が予測される道内の市町村の総合計画の構造と策定プロセスについて -
◎大伏玄泰、森傑、野村理恵	移動型サービスの利用を中心とした生活構造に関する基礎的研究 - 深川市納内町の移動販売事業に注目して -

発表セッション2. 一般部門「観光」	
発表者、共著者	タイトル
◎阿部拓海、宮原浩、池ノ上真一	季節と交流のダイナミズムからみた暮らしの仕組みに関する研究 - 江差町における地域資源の再発見と観光への活用を事例として -
◎平柳恵太、石黒侑介、上田裕文	観光に対する住民意識と主観的 QOL との関係性に関する研究 - 北海道美瑛町を事例として -
◎太田広、松田泰明	日本型フットパスの観光利用の可能性 - 北海道における利用者アンケート調査から -

発表セッション3. テーマ部門「歴史とまちづくり」	
発表者、共著者	タイトル

◎渡邊萌木	民間団体による未指定文化財保全活動の社会的意義に関する研究 - 兵庫県篠山市における古民家再生ボランティアを事例に -
◎佐藤葉澄、寿都町教育委員会	「寿都町歴史文化基本構想」の策定の取り組みと今後に向けて

司会：小篠隆生氏（北海道大学）／コメンテーター：高橋秀士氏（札幌市）大塚英典氏（株式会社ドーコン）池ノ上真一氏（北海道教育大学）



研究発表セッション

7. 優秀ポスターの発表

賞	研究発表タイトル	研究者	所属
支部長賞	移動型サービスの利用を中心とした生活構造に関する基礎的研究—深川市納内町の移動販売事業に注目して—	◎大伏玄泰、森傑、野村理恵	北海道大学大学院工学院建築都市空間デザイン専攻
一般優秀賞	親子が足を運びたいくなる子ども・子育て支援とソーシャルワーク・システム	◎所美穂子、岩本康治、井端明男、鈴木栄基	岩見沢市教育委員会
一般学生奨励賞	観光に対する住民意識と主観的 QOL との関係性に関する研究-北海道美瑛町を事例として-	◎平柳恵太、石黒侑介、上田裕文	北海道大学国際広報メディア・観光学院観光創造専攻
テーマ部門優秀賞	民間団体による未指定文化財保全活動の社会的意義に関する研究- 兵庫県篠山市における古民家再生ボランティアを事例に-	◎渡邊萌木	北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院
テーマ部門特別賞	「寿都町歴史文化基本構想」の策定の取り組みと今後に向けて	◎佐藤葉澄	寿都町教育委員会

以 上